

先進校に学ぶキャリア教育の実践

リアルな「現実」に立ち向かう学習で 生涯学び続ける力を育む

ときわ
常盤高校
(埼玉・県立)

常盤高校は看護科単独の専門高校。教育課程は独特ですが、人材育成の視点は決して特殊ではありません。リアリティを追求するプロジェクト学習、「揺れる」生徒への進路指導、ポートフォリオを活用した異学年交流…
普通科や他の専門学科の高校が、そのまま参考にできる取り組みも多いのではないのでしょうか。

取材・文／藤崎雅子

実践のKeyword

🔍 プロジェクト学習 🔍 ポートフォリオ 🔍 ルーブリック 🔍 異学年交流 🔍 地域社会

専門性の向上だけでなく 人間的な成長を重視

常盤高校は埼玉県で唯一の看護に関する専門高校だ。看護科3年と専攻科2年を合わせた5年一貫教育を行っており、すべての課程を修了すると看護師国家試験受験資格が得られる。国試を突破し、卒業後は、助産師や看護教諭などを目指して進学する一部を除き、ほとんどが看護師として巣立っていく。

看護師養成機関には大学や3年課程看護学校もあるが、同校のように早期から専門的に学ぶ5年一貫課程は、看護師への最短ルートとなる。教育課程や進路に特殊性のある同校だが、島村圭校長はあくまで「高校」である点を強調。キャリア教育の重要性は、普通科や他の専門学科と変わらないという。

「目標が明確な生徒たちに、早期から専門的な教育を行うのは意義のあることです。一方で、高校入学時点ではまだ人間的に未熟な面もありますので、そうした基礎的な力もしっかり身に付けさせる必要があります」

同校が目指すのは、単に看護師国家試験に合格させることではなく、「確かな知識・技術と豊かな人間性を兼ね備えた看護のスペシャリスト」を育成することだ。そのため、スーパー・プロフモシヨナル・ハイスクール（SPH）指定をてこに、2014年度から「5年一貫教育の特徴を生かした看護専門職者を育成するための先進的なプログラム開発」をテーマとした改

革をスタート。専門科目を中心とした全校全体に関わる改革であり、普通教科も含めたすべての教員が課題別チームに分かれて取り組んでいる。

社会に出てからも 学び続けられる力を育む

この改革で掲げている大きな目標は、医療技術の進歩や環境変化が著しい社会において看護師として活躍していくための、「生涯学び続ける力」の育成だ。研究推進委員事務局長を務める守屋有紀先生はこう語る。

「看護師国家試験に合格させることは本校の大きな使命で、そのための指導を継続して行ってきました。しかし、せっかく努力して看護師になっても、数年で離職する卒業生もいます。短期間で看護師として社会に送り出さなくてはいけないからこそ、卒業時点で学ぶことを終えるのではなく、その先も自ら学んでいく力を付けさせたい。改めて国家試験合格の先に目を向け、どんな看護師になってもほしいか、長く活躍するためにはどんな力が必要かを議論し、「生涯学び続ける力」の育成という目標を掲げました」

「生涯学び続ける力」を支える要素として、従来から同校が大切にしてきたことを含めて整理し、「豊かな人間性」「確かな知識・技術」「科学的思考・判断力」という3つの柱を設定。それぞれの育成に向け、プログラムの充実を推進している（図1）。
1 つめの「豊かな人間性」に関する代表的な取り組みは、高校1学年〜専攻



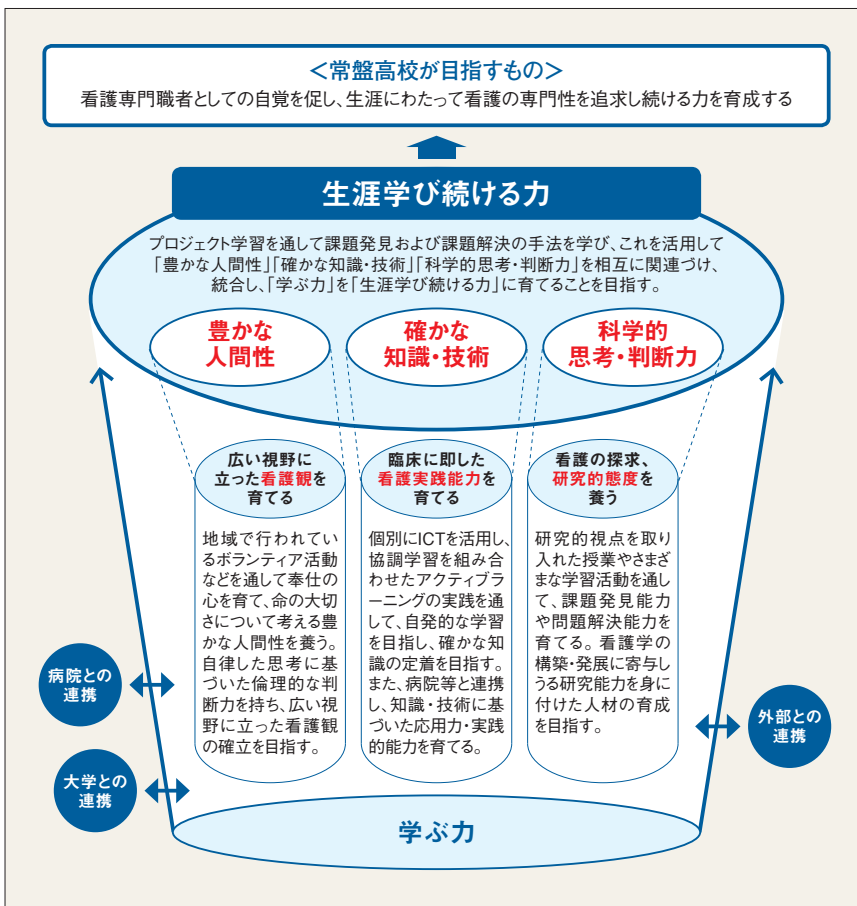
School Data

1970年設立／看護科・看護専攻科
 生徒数394人(男子12人・女子382人)※専攻科含む
 進路状況(2017年3月専攻科修了生実績)
 大学2人・専門学校5人・就職74人・その他1人
 埼玉県さいたま市桜区上大久保519-1
 TEL 048-852-5711
 URL http://www.tokiwa-h.spec.ed.jp/

Outline

1970年に全日制衛生看護科の女子校として開校。95年に看護専攻科を設置。2002年より学年進行で5年一貫教育による看護師養成課程に移行。03年に男女共学化。現在、看護に関する学科を設置する高校が全国で97校(5年一貫課程は78校)あるうちの1校。看護師国家試験合格率は4年連続100%。平成26年度スーパー・プロフェッショナル・ハイスクールに指定され、5年間の研究事業に取り組んでいる。

図1 常盤高校のSPHコンセプトイメージ



科1学年の全員が夏休みに行う「地域活動体験」だ。児童館や介護施設の補助や、地域イベントのスタッフなど、生徒各自が内容を選んで手配し実施する。看護分野を集中的に学んでいくと関わる世界が狭くなりがちなため、地域に出ることが、異世代とのふれあいを学び、視野を広げる貴重な機会となっている。

2つめの「確かな知識・技術」は、臨床に即した看護実践力の根幹となる。専門科目を中心に、ICT活用やジグソー

法導入などによる授業改善を推進。また、学年に応じた看護技術の到達目標を設定し、生徒が自己評価し自身のスキルアップを確認できるような具体的な評価表を開発中だ。

3つめの「科学的思考・判断力」は、看護学を自然科学の学問として研究的態度を養う際に必要となる。高校2学年から学術論文を批判的な視点で読む機会を設け、専攻科で取り組む「看護研究」の効果的な実践につなげている。

図2 SPHの5年間で各学年が実践するプロジェクト学習

学年	テーマ	概要	活動
高1年	「避難所・環境プロジェクト」	避難所のボランティアを行う場面を想定し、避難者の支援方法を提案する。	チーム
	「大切な人の健康を守る提案をします」	家族の健康を守るために継続可能な対策を提案する。	個人
高2年	「エビデンス探求プロジェクト」	体の働きや健康に関する通説が本当に正しいか、実験と文献の両面から検証する。	チーム
高3年	キャリアプロジェクト「夢をかなえよう」	自分の強みを見つけキャリアストーリーを描く。	個人
専1年	「ヘルスプロジェクト」	疾患を抱えていても自らの健康をコントロールし改善する方法を提案する。	チーム
専1・2年	「キャリアプロジェクト」	進路実現に向けて活動する。	個人

「調べ学習」ではなく「プロジェクト学習」へ

そして、特に注目したいのが、「生涯学び続ける力」につながるものとして行っているプロジェクト学習だ。狙いは、課題発見および課題解決のプロセスを通じて、「豊かな人間性」「確かな知識・技術」「科学的思考・判断力」を相互に関連づけ、統合し、受身で学ぶのではなく自ら学ぶうとする意識・態度を育てること。看護の専門科目の授業の「環」や長期休業中の課題などに位置付け、5年間で6つのプロジェクト学習に取り組む(図2)。これまでも「プロジェクト学習」として取り



今年度は10月に高校1学年・専攻科1学年が合同でプロジェクト学習の公開プレゼンテーションを実施。



プロジェクト学習の発表方法は、クラスや学年などで繰り返しプレゼンを行い改善していく。

環境整備プロジェクト」を紹介しよう。こ

想定した「〇〇さん」のために徹底的に追求し解決策を提案

実践例として、高校1学年の「避難所・環境整備プロジェクト」を紹介しよう。こ

めて現実的な提案に仕上げている。

例え、歩行困難な90代女性に対する排泄補助」をテーマにしたグループは、対象者に「佐藤悦子」という仮名をつけ、身長・体重から日常の運動能力などを細かく想定。その「佐藤さん」のために「簡易トイレを作る」という解決策を提案した。実際に簡易トイレを段ボールで製作し、どのようなサイズが適当か、避難所どこに設置するか、使用時はどのような配慮が必要か、細部までイメージしながら提案としてまとめた(写真)。

「こうした『〇〇さん』のリアリティがなければ、インターネットからユニバーサルデザインの情報を引っ張ってきて終わりだったかもしれません。現実社会で起こる

Voice

プロジェクト学習公開プレゼンテーション実施後の感想より

○「対象者に不自由なく生活してもらうためにはどうしたらよいか」の具体的な提案を考えるのが一番大変でした。具体的な提案を思いついても、実際にやってみると全然うまくいかなかったり、対象者にとって本当によい提案なのかわからなくなったりと、なかなか意見がまとまりませんでした。(中略) づらい時たくさんありましたが、その分、いろいろな力がついていたと思います。(高校1学年・女子)

○公開プレゼンテーションで専攻科1年の先輩の発表を見て、自分たちとの差がよくわかりました。こんなところにも着目しているんだ、など感心することがたくさんありました。自分も3年後には先輩のようなたっさんの人々を、あっと言わせる発表ができるようになりたいです。(高校1学年・女子)

図3 避難所・環境整備プロジェクトの概要

ミッション ▶ 避難所で2日間過ごす「対象者」が最も課題となる1シーンについて解決策を提案する

設定 ▶ 6月27日(火)午後2時
茨城県震源のM8.0の地震発生(さいたま市桜区：震度6強)

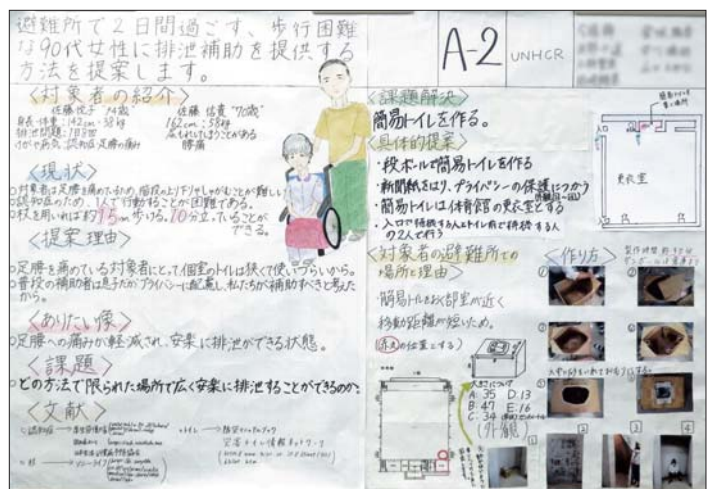
- 27日：生徒は帰宅でず体育館で過ごした。
- 28日：午前9時、さいたま市長から下記の要請
 - ①看護師・ボランティア不足から、常盤高校学生が避難所を手伝うこと
 - ②避難所不足により、常盤高校体育館を一時避難所とすること

※避難者受け入れは6組10人。1年生が担当。他の生徒、職員は、他の避難所の手伝いに行った。常盤高校には、校長・教頭・事務長と学年職員・生徒、避難してきた人、併せて111人がいる。
※受け入れは28日午後1時から2日間。
※水、食料はさいたま市より配給済み／電気不通で非常灯のみ。懐中電灯、ペンライト各30個あり／ガス使用不可で携帯ガスコンロ2台あり／トイレの洗浄水は貯水槽より使用可能

図4 避難所・環境整備プロジェクトの流れ

フェーズ	月	主な活動
導入・準備	4月	<ul style="list-style-type: none"> ○ スーパーアドバイザー鈴木敏恵先生の講義 ○ 各グループが「対象者」(テーマ)を設定<テーマ例> <p><テーマ例></p> <ul style="list-style-type: none"> ・歩行困難な90代女性の排泄補助方法の提案 ・妊娠3カ月のイスラム教信者30代女性の避難所での安楽な姿勢の提案 …など
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 地震体験を通じて被災者の気持ちを知る ○ 「R10」を活用して対象者を具体化 <p><R(リアル)10>*</p> <ul style="list-style-type: none"> ①時間 ②住居 ③空間 ④健康・生活 ⑤家庭・立場 ⑥仕事・職業 ⑦欲求行動 ⑧生活史 ⑨地域 ⑩経済状態 <p>対象者の1日の行動を具体的にイメージ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 対象者の「ありがたい姿」を考え、現状との差から問題点を探る。(相互発表、担当教員のコーチング、工程表作成)
まとめ・発表	6月	<ul style="list-style-type: none"> ○ インターネットや書籍を活用し文献検索 ○ 「ありがたい像」に近づけるための解決策を考える ○ 解決策についてクラス内発表 <p>発表内容を1枚の横造紙に表現。</p>
	9月	<ul style="list-style-type: none"> ○ プレゼン資料制作 ○ クラス内プレゼンテーション ○ 2クラス合同プレゼンテーション
再構築	10月	<ul style="list-style-type: none"> ○ 公開プレゼンテーション ○ 他者のメッセージ(サンキューカードを参考に再構築し、凝縮ポートフォリオ作成) <p>発表した各グループに対するサンキューカード・アドバイスカードをもとに振り返りを行う。</p>

* [AI時代の教育と評価—意志ある学びをかなえるプロジェクト学習 ポートフォリオ 対話コーチング] (鈴木敏恵著・教育出版)より



対象者について、年齢や身長・体重、病歴だけでなく、「杖を用いれば15m歩ける」「10分立っていることができる」など現状を具体的に設定。提案には避難所の見取り図を用いて、支援する場所や、必要となる簡易トイレの使用時以外の保管場所も示している。



研究推進委員副事務局長
三津橋佳子先生



研究推進委員事務局長
守屋有紀先生



主幹教諭
高木邦子先生



教頭
あるが
有賀弘一先生



校長
島村圭一先生

図5 「SPHで身につく力～実習ルーブリック～」

* SPHで身につく力”ルーブリック”実習編

項目	5	4	3	2	1
1. 基礎知識の習得	基礎知識を正確に理解し、応用できる。	基礎知識を理解し、応用できる。	基礎知識を理解し、応用できる。	基礎知識を理解し、応用できる。	基礎知識を理解し、応用できる。
2. 実践力の向上	実践力を十分に発揮し、課題を解決できる。	実践力を発揮し、課題を解決できる。	実践力を発揮し、課題を解決できる。	実践力を発揮し、課題を解決できる。	実践力を発揮し、課題を解決できる。
3. 協働力の発揮	協働力を十分に発揮し、チームで課題を解決できる。	協働力を発揮し、チームで課題を解決できる。	協働力を発揮し、チームで課題を解決できる。	協働力を発揮し、チームで課題を解決できる。	協働力を発揮し、チームで課題を解決できる。
4. 自己評価と振り返り	自己評価と振り返りを適切に行い、成長を促すことができる。	自己評価と振り返りを適切に行い、成長を促すことができる。	自己評価と振り返りを適切に行い、成長を促すことができる。	自己評価と振り返りを適切に行い、成長を促すことができる。	自己評価と振り返りを適切に行い、成長を促すことができる。

改革に取り組み始めて3年が経ち、授
業や実習、プロジェクト学習の成果発表
などさまざまな場面で、教員は生徒の成
長を実感している。
「素直な生徒が多いのですが、最近ほ物
事を批判的に見たり、根拠に目を向けた
り、一歩踏み込んで考える様子が見られ
ます」(高木先生)
「積極的な姿勢が目立つようになったと
感じます。プロジェクト発表会では、自分
の言葉で意見や感想を述べたり、積極的
に質問するようになりました。また、実
習先の病院から、カンファレンスでの意見
交換が活発になったという声も頂いてい
ます」(守屋先生)
こうした生徒の成長をどのように測
るか、難しいのはその評価方法だ。当初
より、各学年終了時に社会で役立つ汎用
的な力30項目について生徒の自己評価
アンケートを実施してきたが、生徒の主
観が反映されるため、変容
を的確につかむことが難し
い。そこで、昨年度、より客
観的に評価するためのルー
ブリックを作成した(図5)。
「生涯学び続ける看護専門
職者」として目指す姿につ
いて改めて検討し、「協調
性」「臨地のイメージ力」な
ど20項目について、5段階
の評価基準を設定。専攻
科2学年で「5」を目標に
置き、各学年終了時に生徒
の自己評価と教員による
評価を実施して振り返り

に生かしていく計画だ。
**進路に揺れながら
先輩の背中を追いかける**
最後に、進路に関する指導に目を向け
てみたい。生徒は看護師志望を前提とし
て入学するが、その目標を卒業まで揺る
ぎなくもち続けられる生徒は多くはな
いという。夢に向けてやる気に満ちて入
学し、しばらくは目を輝かせながら学校
生活を送るが、次第に勉強面で遅れをと
つてモチベーションが下がったり、看護現
場の実態を知って自信をなくしたりし
て、目標が揺れる生徒も出てくる。そん
な時は、担任による面談をはじめ、複数
の教員が多面的にフォローする。
「揺れたり悩んだりするのは、真剣に考
えているからこそであり、決して悪いこと
ではないと考えています。挫折もあれば
達成感もある。多くの生徒は、その繰り
返しのなかで揺れながら、看護師への希
望を確かなものにして進んでいきます」
(高校3学年担任・三津橋佳子先生)
また、さまざまな場面で異学年交流
を取り入れ、同じ目標をもつ者同士の縦
のつながりを大切にしていることも、生
徒の進路観に影響しているようだ。
例えば、高校1学年から専攻科1年ま
でが取り組む「地域活動体験」の事前学
習では、初めて取り組む高校1年生に、
高校2年生が活動の選び方や申し込み
方法などをアドバイスする交流会を実
施している。同校では入学時から「パー
ソナルポートフォリオ」を作成しており、

人の縦割りグループに分かれる際、最初に
「パーソナルポートフォリオ」を用いて自己
紹介を行う。お互いの距離を近づけたう
えで、効果的なアドバイスや相談ができ
るようにしている。
このほかにも、高校2年生が初めて実
習を行う際や、高校3年生が専攻科へ進
むなどの節目に、1つ上の学年の生徒と
の交流会を実施している。また、年1回
開催するプロジェクト学習発表会には複
数学年が関わり、学年を超えて学習成
果を共有する。
「下級生は、成長して看護師に着実に近
づいている先輩たちの姿に自分の数年後
を見て、こうなりたいと意欲を高める。一
方の上級生は、後輩の姿から自分のたど
ってきた道のりを振り返り、成長を実感
する。異学年交流は上級生と下級生の
双方にとって良い刺激になっているよう
です」(教頭・有賀弘一先生)
看護師国家試験において、同校は今春
で4年連続の合格100%を達成してい
る。ただし、この数字が同校の教育成果
のすべてではない。同校教育の焦点は卒
業生が看護師としてどう力を発揮して
いくかにあり、その成果は長い時間をか
けて証明されていくものだからだ。
「本校の生徒には、看護師になって人の
役に立ちたいという純粋な志を強く感
じます。そんな志をどうやって伸ばして
いくか、今後も高校看護科らしさを生か
して考えていきたいと考えています」(島
村校長)

ルーブリックを作成し 生徒の変容を客観評価

「関わる人の背景や気持ちを含めていかに具体的にイメージできるかで、発想や行動が変わってきます。何事においても、その視点は大事にしてほしい。身につけた知識や技術を活用して、『人』を真ん中にして考えることが、A1時代に求められる看護の力だと思えます」(守屋先生)

「素直な生徒が多いのですが、最近ほ物事を批判的に見たり、根拠に目を向けたり、一歩踏み込んで考える様子が見られます」(高木先生)
「積極的な姿勢が目立つようになったと感じます。プロジェクト発表会では、自分の言葉で意見や感想を述べたり、積極的に質問するようになりました。また、実習先の病院から、カンファレンスでの意見交換が活発になったという声も頂いています」(守屋先生)
こうした生徒の成長をどのように測るか、難しいのはその評価方法だ。当初より、各学年終了時に社会で役立つ汎用的な力30項目について生徒の自己評価アンケートを実施してきたが、生徒の主観が反映されるため、変容を的確につかむことが難しい。そこで、昨年度、より客観的に評価するためのルーブリックを作成した(図5)。「生涯学び続ける看護専門職者」として目指す姿について改めて検討し、「協調性」「臨地のイメージ力」など20項目について、5段階の評価基準を設定。専攻科2学年で「5」を目標に置き、各学年終了時に生徒の自己評価と教員による評価を実施して振り返り